

60 類、61 類又は 63 類 1. 模様編みの組織を有するものの解釈

1. 生地で「模様編みの組織を有するもの」とは、次に掲げるものをいう。

- (1) よこメリヤスにあつては、平編み、ゴム編み若しくはあぜ編み（ウェールの方向に表編目、裏編目を交互に配してあぜ状を現わした原組織をいい、ゴム編みにタック編みを応用してあぜ状を現わしたものを含まない。以下同じ。）又はパール編みの組織のもの（組織を変えることなく色糸を使用することにより模様を現わしたものを含む。以下同じ。）以外のもの
- (2) たてメリヤスにあつては、シングルデンビー編みの組織（ 1×1 組織）のもの（組織を変えることなく色糸を使用することにより模様を現わしたものを含む。以下同じ。）以外のもの
- (3) 平編み、ゴム編み、あぜ編み若しくはパール編み又はシングルデンビー編み（以下、「平編み等」という。）のいずれかを組み合わせて模様を現わしたもののうち、簡単な模様のもの（例えば、平編みにゴム編みのストライプを配したようなもの）以外のもの
- (4) 二重編み又は両面編みのメリヤスにあつては、表裏のいずれかが（1）、（2）、（3）、（5）又は（6）に掲げる模様編みの組織のもの
- (5) 添加糸を編み込むことにより模様を現わしたもの（平編み等の原組織で添加糸が地糸と同一の組織を形成しているものを除く。）
- (6) その他上記以外の変化組織のもの

2. 製品で「模様編みの組織を有するもの」とは、次に掲げるものをいう。

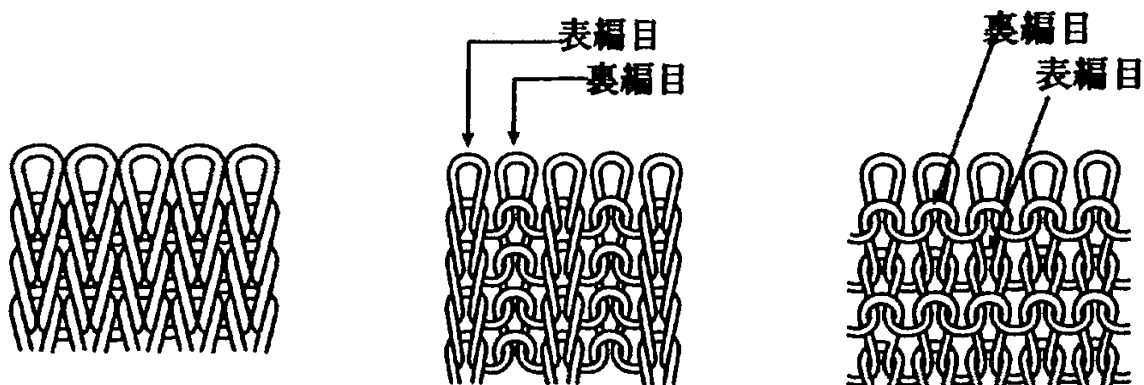
衣類、ショール等の編物製品で、その全部又は一部に 1 に掲げる模様編みの組織を使用しているもの（ただし、襟回り、ポケット、袖口等にさ細なストライプとして使用しているもの又は装飾以外の目的で少量使用しているものを除く。）

60 類、61 類又は 63 類 2. メリヤス編物

関税率表解説第 60 類の総説に規定されているメリヤス編物の具体的組織は、次のとおりである。

(1) よこメリヤス組織

- (a) 平編み：編目のすべてが同じ方向に引き出され、同じ状態に配列されている（第 1 図参照）。
- (b) ゴム編み又はあぜ編み：各ウェール（編目のたての列）が 1 行又は数行ごとに表編目、裏編目と交互に配列されている（第 2 図参照）。
- (c) パール編み：(b) と反対に各コース（編目のよこの列）が 1 行又は数行ごとに表編目、裏編目と交互に配列されている（第 3 図参照）。



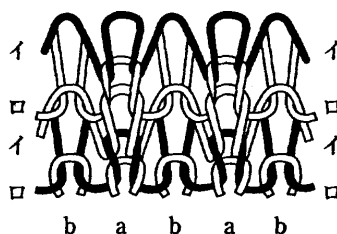
(第 1 図) 平編み

(第 2 図) ゴム編み又はあぜ編み

(第 3 図) パール編み

- (d) 片あぜ編み：カーディガン等に使用されるもので、ゴム編みに変化組織であるタック編みを応用した組織であって外観は表裏が異なり、原組織であるゴム編み又はあぜ編みに比べて一層大きなあぜ状を現すが、伸縮性は少なくなる。

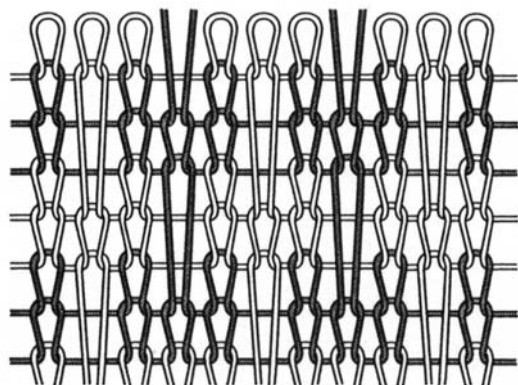
第 4 図はこの組織を示したもので、(イ) の編糸は (b) なるウェールのみでタック編みをし (a) なるウェールでは通常の編目を形成している。また (ロ) の編糸は、普通のコースを形成するが (b) のウェールで (イ) の糸によりタックされ編目が拡大される。



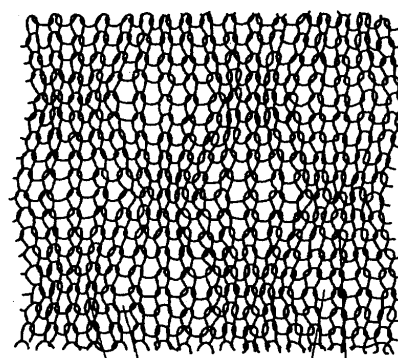
(第 4 図) 片あぜ編み

- (e) 浮編み：所定の部分において編目を作らず、この部分の編糸を編地の裏にまっすぐに浮かしたものである（第 5 図参照）。

(f) 平編みとゴム編みを市松状に配したもの：これは組織的には、平編み等の原組織のみから構成されるがその組合せにより模様効果が高く現れているものである（第6図参照）。



(第5図) 浮編み

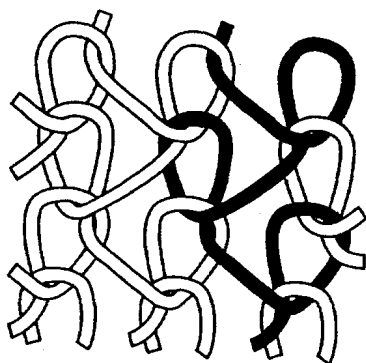


A B B A
A：ゴム編み部分 B：平編み部分

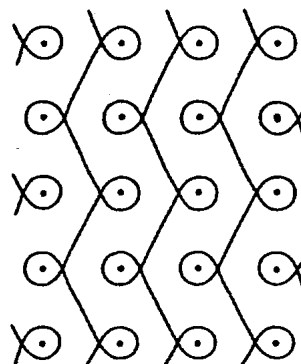
(第6図) 平編みとゴム編みの市松状組合せ

(2) たてメリヤス組織

(a) シングルデンビー編み：1枚の箴（おさ）を使用して編製される1×1の組織のものである。糸の動きは2本の針の間にだけ限定されるもので一つの編目を形成すると次のコースでは隣の針にかけられて編目を形成し、その次のコースでは再び初めの針にかけられて編目を形成する（第1図及び第2図参照）。

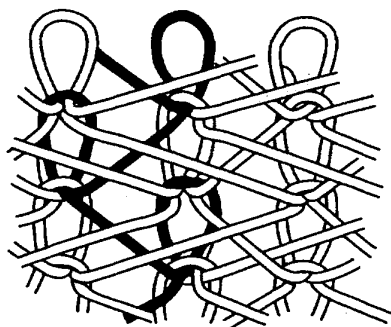


(第1図) シングルデンビー編み

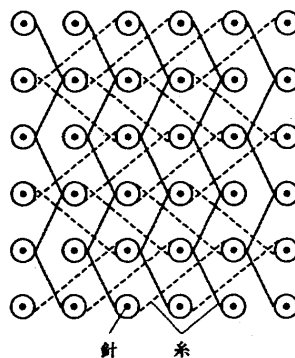


(第2図) シングルデンビー編みの組織図

(b) トリコットーフ編み：たてメリヤスの主要な編地でありワイシャツその他の多くの製品の製造に使用される。2枚の箴（おさ）を使用し前箴（おさ）のたて糸でシングルコード編み（糸の動きは3本以上の針の間を往復するもので、1列のたて糸を二つ以上の編針を超えてラッピングさせて得られる。）を後箴（おさ）のたて糸は、上記（a）に掲げたシングルデンビー編みを編製させて得られたメリヤスの二重組織である（第3図及び第4図参照）。



(第3図) トリコットハーフ

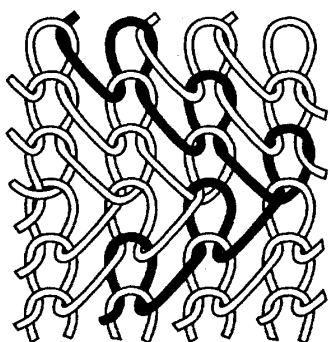


(第4図) トリコットハーフの組織図

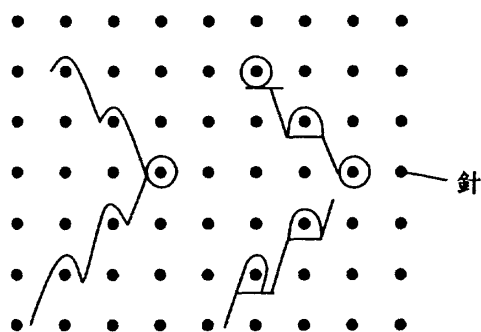
実線=シングルデンビー (1×1)

点線=シングルコード (1×2)

(c) アトラス編み: この組織は、1枚の箴(おさ)で編製されるものであり、糸の動きは3本以上の針の間を往復するものである(第5図及び第6図参照)。



(第5図) アトラス編み

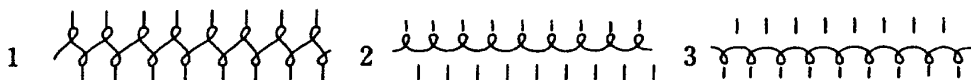


(第6図) アトラス編みの組織図

60.02 項～60.04 項又は 60.06 項 1. milano rib

本品の編目組織は、1本の糸によるゴム編みと2本の糸による平編みとが組み合わされて編み上げられたものである。ゴム編み組織の編目に平編みの編目が規則正しく重なっており、編地は比較的簡単でしかも安定している。

〔組織図〕



本品は、ゴム編みと平編みとが組み合わされて編み上げられたものであるが、表裏はいずれも平編み組織で構成されており、「模様編みの組織を有するもの」とは認められないので、本号に分類する。

60.02 項～60.04 項又は 60.06 項 2. Wool Pique Double Jersey

本品は、両面編物（Interlock fabrics）の変化組織で、編地の裏面は平編みとし、表面はその変化組織であるタック編み（Tuck knitting（メリヤス組織の一種で、編地の面に凹凸点を与える場合又は編地を厚くみせる場合等に使用され、ある編立コースで一部又は全部の編針に編目脱出をさせず、次のコースにおける新しい編目とともに針を脱出させて編目を完成する変化組織））によって編まれた二重編物であって、表面にはいわゆる亀甲模様が編み出されている。

本品の所属については、平編み又はゴム編みの基本的組織から誘導変化させた一種の模様編物と認められるので、第 60.02 項～第 60.04 項又は第 60.06 項の「模様編みの組織を有するもの」に属する。